



ザンビアでの活動成果などが発表された報告会

AMD A
医 師

医療、栄養で支援必要

ザンビアでの活動報告

断などを担うカエベタ医師は、低所得者が多く、栄養不良やHIV（エイズウイルス）のまん延で乳幼児死亡率が日本の40倍以上であることを報告。「医療知識を向上させるとともに、調理実習などで栄養について学ばせるなど息の長い支援が必要」と訴えた。

組みについて発表した。同機構はJICA（国際協力機構）の委託を受け、昨年からの3年計画で子どもの健康を守る活動を行っている。（船越元洋）

アフリカ・ザンビア共和国で乳幼児の死亡率を下げる活動をしている国際NGO・AMDA社会開発機構（岡山市北区蕃山町）のカエベタ亜矢医師（41）と、公衆衛生が専門の大谷聡さん（37）が一時帰国し7日、同市民会館（同丸の内）で報告会を開いた。

関係者や市民約60人が参加。現地で健康診

大谷さんは、同国の医療従事者が収入が少